

暑中お見舞い申し上げます。

長い梅雨があけたと思ったら、炎暑の夏になりました。中高は夏休みの真っ最中ですが、大学は前期がやっと終わったところかもしれません。かつては「先生は夏休みがあっていいですね」と言われましたが、現在は、夏も勤務日で、補講やクラブ合宿、学校によっては生活指導と、結構学校に拘束される日々になっています。それでも、授業のない夏は少しはホッとする時期、休養にそして研修に英氣をやしないたいものです。

そんな夏の日々、今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【 1 】 最新活動報告

7月の活動を報告します。

【 2 】 イベントカレンダー

これからの活動の予定などを紹介します。

【 3 】 授業のヒント

【 1 】 最新活動報告

7月は東京で部会が実施されました。その内容を報告します。

■ 東京部会 (No. 68) を開催しました。

日時：2014年7月1日(火) 19時00分～21時00分

場所：日本大学経済学部(本館2階中2会議室)

内容概略：参加者12名。篠原代表はフェイスタイムによる参加。

(1) 「夏休み経済教室」の取り組み状況が東証の石山晴美氏(東京証券取引所)から報告されました。後援関係や協力団体との連絡はほぼ完了。新たにコンタクトがとれた研究団体などの報告がありました。

(2) 大阪部会など各地部会報告が野間理事(同志社大学)から報告されました。

(3) ネットワーク関連団体の各種のイベント(野村総研のエッセイコンテストなど)の紹介がされ、積極的に支援してゆくことを申し合わせました。これに関しては夏休みの課題とリンクさせるなどの工夫の紹介もされました。

(4) 情報提供が新井(小石川中等教育学校)から二件。一つは、今年の入試問題の特色と問題点です。世代間格差やジニ係数の計算がとりあげられはじめていること、

需給曲線のシフト問題が多数出題されていること、マクロ分野では国際収支表関連の問題に関して、このまま出題されるかを注視したいという指摘が指摘されました。また悪問、愚問などの例も紹介されました。今年の最大の愚問は、某大学の「財務大臣と日銀総裁の姓名を漢字で書き、ふりがなをふらせる」という問題であるとの紹介もされました。

二点目は、金融経済教育推進会議（事務局、金融広報中央委員会）が作成した『金融リテラシー・マップ』が紹介され、意見交換がされました。

（５）実践報告は二本。一つは、塙枝里子先生（都立府中東高）から、前回報告があった「社会の幸せを経済で考えるー横軸から需給曲線を読むー」の続編が報告され、検討が行われました。経済学的には問題が残る部分があったとしても、生徒がこれは面白いと思えば第一段階では成功、誰もが使える教材にさらにブラッシュアップできればよいということでまとめられました。

実践報告に関してはもう一つ、加藤一誠氏（日本大学）が作成された「恋愛と時間の経済学」の紹介もされた。これは高校生向けの、経済学に興味をもたせるためのガイダンス教材で、ダイエット、恋愛パターンなどから、時間割引率の考え方を紹介するもの。ここから、貯蓄や利子率の意味など金融と結び付けて教材として拡張できないかとの意見もだされました。

内容の詳細は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo068report.pdf>

【 2 】 イベントカレンダー

■ 「夏休み経済教室」が来週からはじまります。

「先生のための夏休み経済教室」がいよいよ来週から始まります。7月28日現在の受け付け状況は以下の通りです。名古屋、大阪、東京中学にはまだ余裕がありますので、お知り合いの先生方にお声をおかけください。

場所	日程	申し込み数	会場
名古屋中学	8月4日	45名	ウインクあいち
同高校	8月5日	49名	同
大阪中学	8月7日	106名	国民会館
同高校	8月8日	87名	同
東京高校①	8月14日	200名	東証ホール
同 ②	8月15日	201名	同
東京中学①	8月18日	163名	東証ホール
同 ②	8月19日	138名	同

なお、申し込みは東京証券取引所の以下のHPよりおこなうことができます。

<http://www.tse.or.jp/learning/education/kyoin/natsu-keizai/index.html>

■大阪部会 (No. 40)を開催します。

日時：2014年9月20日(土) 18時00分～20時00分

場所：同志社大学 大阪サテライト

大阪市北区梅田 1-12-17 梅田スクエアビルディング 17階(予定)

内容、参加方法は下記のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka40flyer.pdf>

■東京部会 (No. 69)を開催します

日時：2014年9月24日(水) 19時00分～21時00分

場所：日本大学経済学部

内容、参加方法は下記のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo069flyer.pdf>

■札幌部会 (No. 11) を開催します。

日時：2014年9月27日(土) 14時30分～17時00分

場所：キャリアバンク セミナールーム

札幌市中央区北5条西5丁目7番地

sapporo55 5階 (JR札幌駅紀伊国屋のビル)

内容、参加方法は下記のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo011flyer.pdf>

■関連団体からのお知らせ

(1) 野村総合研究所から

「NRI 学生小論文コンテスト」募集中です (2014/6/30-9/5)。

夏休みの生徒の課題とリンクさせて活用されることをおすすめします。

内容、参加方法の詳細は下記HPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/etc/NRIcontest2014.pdf>

(2) 金融広報中央委員会から

①「教員のための金融教育セミナー」(2014/8/1)が本日開催されます。

内容、参加方法の詳細は下記のHPをご覧ください。

<http://www.shiruporuto.jp/event/2014/14semi/pdf/14seminar.pdf>

②「金融教育に関する実践報告・小論文コンクール」募集中です。先生方の実践や論文をまとめるチャンスです。

内容、参加方法の詳細は下記HPをご覧ください。

<http://www.ron2014.jp/pdf/tc.pdf>

【 3 】 授業のヒント

■ フィールドワークで教材のヒント発見

夏休にはフィールドワークに出かけましょう。フィールドワークは、大は海外旅行、中は国内の旅行やレジャー、小は地域回りといろいろな段階があります。もっとマイクロでは、購読している新聞の広告、折込、テレビのCMの観察なども立派なフィールドワークです。そう、休暇中の自由時間での活動がすべてフィールドワークになります。

その時のポイントは、「違和感」です。これも大げさなことではなく、なんだか変だ、どうしてこうなのというカンを大事にすれば大ネタ、小ネタたくさん引っかかってくるはずです。それを、大ネタだったら授業に組み立ててゆく、小ネタは授業のつかみや雑談に利用することができます。

私の場合、海外旅行の外国飛行機会社の機内でカップラーメンがでて日本食の人気、海外進出ぶりを実感したり、国内旅行では、なんでこんなところに市役所がという例（宮城県石巻市の撤退デパートに入居）を発見したり、旅ネタをいくつか発見した思い出があります。また、最近では医者通いの途中で、空家（家の周の木がぼうぼうなのでわかる）が多くなっていることで地域の高齢化が進行していることを確認したりしています。通院では、結構大変な治療をやっても何百円、検査をするとその桁が違ってくるといふ発見もありました。

フィールドワークでは、できるだけ自分を空（から）にしておくことが肝心です。空でないと何か変だと思ふ余地がなくなるからです。また、無理に経済に結び付けなくとも、ひっかかった何かをもとに調べなおしてみればどこかで経済が顔をだします。

せっかくの夏休み、遊びの中に勉強や仕事を組み入れられれば最高です。

〔前回の回答〕

(1) 多くのコンビニは右回りにお客を誘導しようとしているのでしょうか、それとも左回り？その理由は？

【答】左回り。レジまでグルッと回らせ途中の買い物をさせるという説と、人間右利きが多いので、左回りにすると商品がとりやすいという二説あります。

(2) レジの近くに置いてある人気商品は次のどれ？

【答】③のポケット菓子（チロルチョコやブラックサンダーなど）です。ブラックサンダーは 有楽製菓のヒット商品で、ターゲットは若い

女性だそうです。チロルチョコなどもレジ近くに置かれている隠れたロングセラーのついで買い商品です。ちなみに①のアイスクリームは奥、②の雑誌は窓側、④のお弁当はレジの左手前に比較的多く置かれているはずです。確認してみてください。(新井)

【 4 】編集後記 (みみずのたはこと)

橋本俊詔著『ニッポンの経済学部』という本を読みました。なぜ経済学部の学生は勉強しないのかなど、興味深い、身につまされるような話題が豊富な本です。また、具体的な学者名がぼんぼんできて、一種の内幕ものともなっています。こういう類の本は面白いのですが、そこまで書いてしまうと、どうなのかなという疑問の方が強くなります。格差の現実を認めて階層別にニーズに合った教育が必要という部分は、高校の現実とも合致する部分があり納得できました。とはいえ、どんな学校でも経済学ないし経済的な見方や考え方のエッセンスはしっかり教えるべきだと思うのですが、それに関するしっかりした言及や大学の入試問題の問題は取り上げられていません。おもしろくやがてさびしき新書かなという印象でした。(新井)

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>

(新しくお問い合わせフォームを作成しましたのでそちらに記入して送信お願いします。)

=====



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

————— (C) Network for Economic Education ◆◇